

平成30年度千葉県女子サッカー選手権大会（決勝）

2018年8月5日（日）14:00キックオフ ～千葉県総合スポーツセンター東総運動場～

順天堂大学 1(1-0,0-1)1 延長戦0-0 PK戦5-6 帝京平成大学

主審:上田 千尋氏、副審:池下 乃彩氏、林 麗華氏、第4の審判員:竹内 真理氏(文中敬称略)

連日の猛暑が続く中、女子選手権の決勝戦も非常に暑い中で行われ、延長・PK戦までもつれる大接戦となった試合を無事に終えた審判団に、東総運動場でインタビューを行いました。



Q 非常に暑い中、PK戦までお疲れ様でした。まずは試合を終えての感想を教えてください。

上田：まず選手、我々審判チームも大きな怪我等なく無事に試合を終えることができ良かったです。試合も80分で決着がつかず延長、PKまで行われ非常に熱い試合となりましたが、最後まで4人で協力して試合を進められました。これも大会運営関係者の皆様のおかげです。ありがとうございました。

池下：私は、今年千葉に第二登録という形で移籍してきたばかりですが、千葉県女子の最強チームを決定する試合の副審を担当できたことをとてもうれしく思います。また、PK戦までいき、どちらのチームも攻めあっており決勝戦にふさわしい試合だと思いました。

林：去年よりも落ち着いて臨めたので、ほっとしました(笑)、同年代の女の子たちの、それも決勝戦の審判をする機会なんてあんまりないので貴重な経験でした。

竹内：大きなトラブルもなく、第4の審判としての任務を果たせてよかったです。

Q みなさん、まだお若いですが、審判を始めたきっかけと、プレーヤー経験がある方は審判していてプレーヤーとの違いを感じる時は？

上田：10代もいる中で若いと言っていたら光栄です(笑)、私は2009年に千葉県に来たのですが当時進学先の大学に女子サッカー部がなく(2015年に創部)、サッカーを続ける環境もなかったので1人でもサッカーに携わることができる審判を選びました。また、自宅に届いたレフェリーニュースに女子の初心者研修会?のページがあって直感で行ってみたい!と思い担当の方に連絡しました。当日は女子1級審判員の千葉さんが主審をやっている真後ろについて必死についていったのを覚えています。プレーヤー時代の私は体を張ってファウルをもらいにいくプレースタイルだったので時には何も考えずボールめがけて突っ込んで生傷が絶えませんでした(笑)。そう考えると、審判は試合前から気を遣って試合中も選手の表情を確認したりたくさん考えて判断したりしなければいけないのでプレーヤーよりも頭を使うんじゃないかなと思います。

池下：きっかけは、元国際主審の今泉奈美さんの試合を見たことです。奈美さんは私と同じくらいの身長ですがフィールドに入り笛を吹くと小ささを忘れてしまうほどに大きく輝いて見えました。そんな姿にあこがれ

たので審判を始めました。私は高校のサッカー部のマネージャーとして活動していたため、プレーヤーの経験は全くありません。

林：小学校卒業と同時にプレーヤーをやめて中学では文化部に入ったので、大会のない期間の趣味の1つとして暇つぶしになるかな～という軽い気持ちで始めました。審判を始めてから一番最初にプレーヤーとの違いを感じたことは、円陣を組まなくなったってことですかね(笑)。

竹内：気持ちは若いのですが、保護者の気持ちで見守っていました(笑)。審判を始めたきっかけは、自分のママさんチームの帯同審判ならできるかなと思ったことが大きなきっかけです。中学からバスケットボールをしていたので、子供がサッカーを始めて応援に行くとパスミス、バックパス、身体接触と自分の理解を超える事象ばかりで理解ができず、そこでサッカースクールに行き始め、スクールで一緒だったママさんチームに誘われてチームに入ってはみたものの、足でボールを使えなくて…。サッカーの大変さを痛感し、プレーヤーではチームに何の貢献もできないので、審判のお手伝いを始めました(苦笑)。



Q みんなの審判歴は？

上田：私は約8年です。

池下：中学3年生の時に4級の資格を取り、活動を始めたのは高校1年生からなので約3年ほどです。

林：4級を取ったのが中学生の時で、審判歴は7年になります。

竹内：約6年くらいだと思います。

Q 上級審判を目指そうと思ったきっかけは？

上田：これと言って明確な理由が思い当たらないのですが、サッカーが好きなのでこれからもサッカーに関わっていきたいというのと、一度始めたことは続けてみようという気持ちがありました。あとは級が上がるに連れていろいろな試合を担当させていただくようになり、もっと審判が楽しくなりました！今こうやって審判を続けられているのも千葉県先輩方に背中を押していただいたおかげですし、いつも我が子のように見守っていただいています(笑)。

池下：高校2年生の時にFFP (Football Future Programme) という研修会に参加させていただきました。その研修会は高校生が各県一人ずつ参加して、大会の審判員として笛を吹いたり、講義を聴いたりするものです。それまで私は、同年代の審判員とはあまり出会う機会はありませんでしたがその研修会で、たくさんのユース審判員と出会いました。その中に、国際審判員を目指している人がいて、その人は私が今まで出会った人の中で一番自分自身に厳しい人でした。そのほかにも個性あふれるたくさんの人と出会いました。FFPの期間だけでも自分自身の審判員としてのスキルの向上を感じ、たくさんの仲間との出会いから多くの考えや生き方を学ぶことができました。だからこそ審判を続けていくことで人生にプラスになると思ったことがきっかけです。

林：色々あった気はするのですが、ユース研修で同じ年代の子が上級を目指しているのに影響を受けた点は大きかったのかなって思います。

竹内：講習会で見てもらって褒められたことと、バスケットボールの審判もしていたので、ファウルの違いとか知りたいと思って。色々なゲームの審判をしてみたいという気持ちもありました。

Q 審判のこんなところが面白い、良かったと思う瞬間は？

上田：サッカーを一番間近で見られることです！もちろん良いことばかりではないですが、拮抗した試合で際どいシーンがあった時に審判も一生懸命走って正しい判定をして選手から「ナイス！」と言われると審判やっていて良かったなって思います。

池下：選手の素顔を観客席からでもベンチからでもなくフィールドの中から見られることです。私は、高校時代にマネージャーとしてベンチからサポートしてきましたが、ベンチからではわからない部員の素顔を審判する事で見られたことはとても新鮮でした。最後に「ありがとう」と言ってくれたり、試合後にわざわざ控室まで来てくれる選手がいるのですが、そんなときはやっていてよかったな！と思います。

林：私もサッカーに関わり続けられることで、様々な方に出会えたり再会出来る瞬間です。

竹内：職場とも、同級生とも違う知り合いができて、いろいろな世代の方と話せたりできること。子供の話についていけるようになったことが良かったです。

Q 最後に今後の抱負、目標を聞かせてください

上田：心身共に健康でいること、これに尽きます(笑)！まだまだ経験は浅いですが、年齢を問わず審判をやりたい！という方が現れるように一生懸命活動していきたいと思います。今後もよろしくお願いします！！

池下：まだまだ知識が足りないので、知識の習得に励みたいです。体力が足りないと実感しているので体力の向上にも努めたいです。今年の東北のミニ国では、主審をさせてもらいましたが、反省点しかありませんでした。来年のミニ国も参加できるように試合経験を積みたいです。

林：もう7年目になったのに審判の楽しみを上手く言語化できずにいるので、審判の楽しさを実感できるようになる！というのを抱負にしています(笑)、そのためにも審判は続けていきたいです。

竹内：信頼できるなと思われる審判になりたいですが、まず何よりも、割り当てをちゃんと担当できるスタミナと気力などを維持すること、競技規則をちゃんと理解できる記憶力を鍛えて行きたいです。

